

ジブチ政治・経済月例報告
(2020年7月)

令和2年8月
在ジブチ日本国大使館

1 新型コロナウイルスを巡る状況

●国内措置

7/16 ジブチ保健省は、国境閉鎖の解除に関する措置を発表し、7月17日より国境（陸空海）が開放された。（注：貨物輸送は一貫して継続されており、旅客に対してのみ3月下旬より閉鎖されていたもの。）

（詳細はこちら<<https://www.dj.emb-japan.go.jp/files/100075172.pdf>>）

●保健当局の対応

7月30日までの累計検査数は57,259件、感染確認者5,126名、うち治癒5,004名、死亡者59名。

2 経済・国際協力

●世銀・IDA融資「経済運営及び政策決定のための統計開発計画」の閣議承認

6/30 5月末に決定した世銀の「経済運営及び政策決定のための統計開発計画」に係る1,500万米ドルIDA融資について閣議で承認された。同案件により、ジブチ国家統計局（INSD）の体制や技術的な能力強化を目指す。

●ジブチ経済財政省による中小企業救済措置

7/6 ジブチ経済財政省は、新型コロナウイルスの影響を受けた中小企業の救済措置として、特例として銀行融資を行う新たなサービスを設けた。

●経済・社会政策に関するドナー会合

7/12・7/28-29 イリヤス経済・財政大臣は、経済・社会政策に関するドナー会合を開催し、「ジブチビジョン2035」（注：ジブチの長期開発計画）に基づき、新型コロナウイルスの影響を受けた経済再活性化の必要性を訴えながら、「ジブチICI（Inclusion・Connectivite・Institution）2020-2024年」と題した5年の中期開発策定プロセスの中で、国内外の幅広いステークホルダーとのインターアクションを実施していく旨発表した。

●ホルホル地区にて電波開通

7/13 ディキル州のホルホル地区（ジブチ市から南西約44キロ）に電波が開通し、テレビやラジオの受信が可能となった。

●ジブチ商工会議所内の人材育成センターにおける人材育成支援プログラム

7/15 ジブチ商工会議所（CCD）が中心となり設置された人材育成センター（CRC : Centre des Ressources et des Competences）に対し、フランス開発庁（AFD）は、EUの支援金（約1,000万ユーロ）により、大型車両運転手人材育成を目的に大型車両を供与した。これにより若者の港湾や物流分野の専門性の向上を目指す。

7/16 CCD、AFD、USAID（アメリカ合衆国国際開発庁）の協力により、上記人材育成センター内にて実施された人材育成プログラムの最初の職業訓練修了生に対する修了証書授与式が実施された。

●タジュラ港経由・国道11号線の輸送開始

7/18 タジュラ港に、初のバラック船（エチオピア向けの石炭5万トンを輸送）が入港した（注：ガスタンカーは過去に入港実績有り）。これにより、昨年整備された北部の物流ルートである国道11号線（タジュラとエチオピア国境のバルホの町を結ぶ道）を使用したトラック輸送が開始した。

●ジブチ海運会社の貨物船運航開始

7/19 ジブチの海運会社“Djibouti Shipping Compagny”が保有する貨物船“Africa Sun”の運航開始式典が実施された。これによりジブチと周辺地域の港間の輸送をジブチが自ら担うことが可能となり、ジブチ港を地域の積替港（transbordement（英語はtransshipment））として発展させる戦略の推進力となることが期待される。

●アフリカ開発銀行によるジブチ支援

7/29 アフリカ開発銀行は、新型コロナウイルスによる国内への影響を緩和するための支援策として、ジブチ政府へ4,116万米ドル（約73億ジブチフラン）の助成支援の供与を承認した。

3 政治・国際関係

●ジブチによる船員交替支援

6/27・28 世界の海運が新型コロナ感染症により船員交替の困難に直面する中、国際海事機関（IMO）の呼びかけで、ジブチ海域に取り残された19名が救助された。ジブチは、同呼びかけに応えるため、ジブチ港・フリーゾーン庁（DPFZA）を中心に、ジブチ港を船員の交替拠点として積極的に計画を推進し、人道支援及び世界の海運へ貢献する。

●中国・アラブ諸国協力フォーラム第9回閣僚級会議

7/6 中国・アラブ諸国協力フォーラム第9回閣僚級会議がビデオ方式で開催され、ユスフ・ジブチ外務・国際協力大臣が参加した。同会議では、新型コロナウイルス対策や、中国と各国の二国間関係強化について協議されたほか、ユスフ外務・国際

協力大臣は自らの演説の中で、アラブ諸国や中国の企業家へ向けてジブチのフリーゾーンへの投資を奨励した。

●国民IDの発行

7/7 ジブチ国民の社会保障等の行政管理を目的に、12桁の国民IDを付与する旨閣議で決定した。

●IGAD閣僚級会議の開催

7/14 ゲレ大統領は、テレビ方式によるIGAD閣僚級会議に参加し、地域の平和と安定化、新型コロナウイルスから経済・社会回復、気候変動や食糧安全保障等、同地域の主要課題について協議した。

4 日本との関係

●草の根無償資金協力2案件の引渡式実施

7/1・7/14 川口参事官は、草の根無償資金協力2案件（「アリサビエ州ダナン地域小学校建設計画」、「ディキル州ボンタ村小学校建設計画」）の引渡式に参加した。

●米谷大使による食糧配布プロジェクトに係る対象農家視察

7/2 米谷大使は、日本政府が国連世界食糧計画（WFP）に拠出した資金で実施される“サバクトビバッタ及び新型コロナウイルスの被害を受けた農家向け食料配布プロジェクト”の対象農家を視察した。

●日本による保健・医療体制強化のための支援

7/13 ジブチの保健・医療分野における支援に関する署名式が、ユスフ外務・国際協力大臣と米谷駐ジブチ日本国大使の間で、ワルサマ保健大臣立ち合いのもと行われた。新型コロナウイルスの影響が続く中で、同プロジェクトを通じてジブチの保健・医療体制を強化し、ジブチ経済・社会の持続的な発展を目指す。

●米谷大使による「国道一号線改修計画」の視察

7/25 米谷大使は、ムッサ設備・運輸大臣と共に、日本の無償資金協力で実施中案件「国道一号線改修計画」の現場視察を行った。同案件は、国道一号線の20キロ（エチオピア国境の町・ガラフィからヨボキ方面）の区間を整備し、ジブチとエチオピアを結ぶ回廊の輸送能力強化を支援するもので、工事進捗約70%まで達成している。

●令和元年度補正予算UNDP案件に関する開始式典実施

7/29 米谷大使、イスマン・ジブチ労働大臣及びファティマUNDP在ジブチ常駐代表は、日本が拠出し、UNDPによって実施される「雇用創出を通じた若者の能力強化支援」に関する開始式典を行った。

以上